

鳥取大学

# 産学・地域 連携推進 たより



- 研究推進に関する事業報告
- 地域貢献・生涯学習に関する事業報告
- 知的財産管理運用に関する事業報告

2015  
夏号

## ①研究推進に関する事業報告

### 1.産業科学特別講義【4月14日(火) 開催:鳥取大学工学部】

産学・地域連携推進機構では、工学研究科、農学研究科、地域学研究科の大学院生、及び一般の方を対象に、産業科学特別講義をオムニバス形式で開講しています。講師陣は、産学・地域連携推進機構の専任教員や、本学のコーディネーターのほか、産業界や産学官連携などで活躍されている方を客員教授として迎え、研究・技術開発や知的所有権、健康、科学政策など広範な現代的課題について、多様な観点から15回の講義を行います。今年度の受講生は工学研究科102名、農学研究科22名、一般1名(計125名)となっています。第11回目は客員教授の齊藤哲氏((財)鳥取県環境事業団とっとり花回廊 参事)が「鳥取県における園芸事情と技術開発で求められることー将来を担う研究者・技術者へー」と題し、鳥取県における園芸を中心に講義がありました。



### 2.はりま産学交流会 6月創造例会【6月19日(金) 開催:姫路商工会議所】

はりま産学交流会の6月創造例会が約60名の参加のもと開催されました。同交流会は、はりま地区の企業と関西地区の大学の産学交流の場となるものです。6月度例会では、鳥取大学の他、2大学から各2件ずつ計6件の発表がありました。

本学からは大学院工学研究科西田教授から「社会に役立つロボットを目指した研究開発」及び大学院工学研究科三浦助教から「マルチロータ型飛行ロボットの活躍」の2テーマの発表がありました。西田教授からは、各方面で活躍するロボットの紹介と鳥取大学で行っているロボット研究についての紹介がありました。宇宙ロボットでは鳥取砂丘を惑星に見立てた移動ロボットの研究、メタンハイドレード等の採掘に活用される海中ロボットの研究についての紹介がありました。また三浦助教からは近年注目されている飛行ロボットの技術内容の説明、問題点、各種応用の可能性などの話があり、大学で進めているロボットによる消火システムの研究、インフラ点検ロボットの紹介等興味深い発表がありました。両発表とも非常に分かりやすく、また多くの質問もあり活発な議論がされました。更に交流会でも多くの方々との交流も行われました。

## ②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

### 1.鳥取銀行寄附講座「マーケティング論」開講 【4月10日(金):鳥取大学共通教育棟】

4月10日(金)に鳥取銀行による寄附講座「マーケティング論」を開講しました。本講座は講師に岡山理科大学の山口教授をお招きし、企業におけるマーケティングを如何に発想するかを論理的に考え、豊かなマーケティング発想力を育成することを目的としています。

今年度は89名の受講生が熱心に講義を受けており、ゲスト講師として実際の経営者の方にも登壇いただいています。また、5月22日には鳥取銀行の宮崎正彦頭取にご講演いただき、銀行業務の解説から鳥取銀行の経営理念とそれを実現させるための施策、学生に期待すること等について、ご自身の経験を踏まえた臨場感溢れるお話をしていただきました。



### 2.平成27年度ものづくり協力会議 総会・懇親会 【4月10日(金):セントパレス倉吉】

総会には、役員・会員37名が参加しました。本学の法橋誠理事の挨拶の後、本協力会議会長:地域学部・土井康作教授から平成26年度の事業報告、事業外部評価、収支決算についての報告、平成27年度の事業計画案と予算案の説明があり、全会一致で承認されました。また、5月16日・17日にオープン予定のファブラボとっとりmid&westについての紹介が行われました。

### 3.サイエンス・アカデミー「社会の役に立つロボットとその技術」開講 【4月11日(土):鳥取県立図書館】

鳥取大学では地域住民の皆様を対象に、本学の教員が行っている研究や、日頃疑問に思っていることなどを中心に、自然科学、技術、環境、地域社会に関する今日の問題等についてテーマ毎に紹介する「サイエンス・アカデミー」を毎月第2・第4土曜日に開催しています。

4~6月は「社会の役に立つロボットとその技術」シリーズとして、本学で行われているロボット技術に関する研究の講演を計6回開催しました。小型飛行ロボットや生活支援ロボットなど、様々な視点から、ロボット技術の現状と課題、その展望について動画等交えて分かりやすく解説いただきました。

#### **4. 地域貢献事業「くらしの経済・法律講座」開講 【4月13日(月):鳥取大学共通教育棟】**

悪質商法の手口や消費者を守る法律、民法から労働法までくらしに役立つ法律、環境問題、投資やお金の話など、各分野の専門家がわかりやすく説明する「くらしの経済・法律講座」が、4月から7月まで計15講座開設されます。本講座は、本学で行っている授業を一般市民向けに公開する「公開授業講座」として、鳥取県消費生活センターと連携実施しています。

4月13日(月)に開催された第1回目では「消費生活トラブルにあわないために」というテーマで特定非営利活動法人コンシューマーズサポート鳥取 佐竹三穂里様に講義をいただき、学生182名、一般の方36名に聴講いただきました。



#### **5. 「地(知)的好奇心育成のための早期体験学習」開講 【4月14日(火)～:湖山キャンパスほか】**

本学では文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受け、地域を知り、地域の課題解決に向けて実践する学びをとおして「地域に対して好奇心を持ち活力と実践力ある人材」を養成するため、教育プログラムを充実させています。

この科目は、本学と連携協定を締結している日南町、大山町、琴浦町、南部町の4町をフィールドに、各町の特色ある自然や産業についての教養を身につけるとともに、地域を学ぶ動機付けを行うことを目的として開設したものです。学生(8名受講)は、実際に現場で体感した課題についてグループを通して問題意識を共有します。4町の職員から各町について講義をいただいた後、山間地での田植え体験(5/9、日南町)、大山寺周辺の視察(5/30、大山町)、鳴り石の浜と大山乳業訪問(6/20、琴浦町)、赤猪岩神社と清水井巡見(7/11、南部町)を行い、地域の方々と交流しました。7月28日には報告会で課題に対する改善案を提案する予定です。



#### **6. 平成27年度第1回産学・地域連携推進室連絡会及び西部連絡会 【4月14日(火):鳥取大学産学・地域連携推進機構、4月23日(水):鳥取大学医学部総合教育棟】**

本学では県内機関の産学金官連携を深めるため、産学・地域連携推進室連絡会を毎月1回第2火曜日に開催しています。今年度第1回目の連絡会では33名の方にご出席いただき、各機関の取り組みについてご報告いただいた後、産学・地域連携推進機構地域貢献・生涯学習部門 清水克彦副部門長が、機構及び連絡会の役割、組織体制等について説明し、参加機関へ協力要請を行いました。

また、西部地区では2か月に1度程度、第3木曜日に医学部を会場に連絡会を開催しています。今年度第1回目の連絡会では、マルコウ運輸株式会社代表取締役 椎名恵様に「物流品質の向上にむけて」と題して講演をいただき、24名の出席者は熱心に耳を傾けていました。

#### **7. 鳥取県商工会連合会と鳥取大学との連絡会 【4月22日(水):鳥取大学地域学部サテライトキャンパス(SAKAE401)】**

鳥取大学では商工会地域企業の経営革新支援や技術開発支援等を効果的に推進していくため、毎年、鳥取県商工会連合会と連絡会を開催しています。平成19年度から始まり、今年で9回目を数える今回は、昨年オープンした鳥取大学地域学部附属サテライトキャンパス SAKAE401を会場に20名の出席者のもと開催しました。

まず、鳥取大学産学・地域連携推進機構の水根正人コーディネーターによる本機構の取り組みについて説明があったあと、鳥取県商工会連合会から今年度の新規事業と重点事業計画の概要説明と各産業支援センターから現在取り組んでいる支援状況と連携の経過について説明がありました。

その後の意見交換では効果的な連携支援について活発な意見が交わされ、今後もお互いに一層の情報共有化と地域産業振興を図ることを確認しました。



## 8.「とっとり農業イノベーション連絡協議会(仮称)」発足式【4月23日(木):鳥取県庁】

農業生産の低コスト化や労働環境の改善を目指し、鳥取県、農業団体、県内各種研究機関が参画する「とっとり農業イノベーション連絡協議会」が4月23日(金)発足しました。本学からは農学部附属フィールドサイエンスセンター野波和好准教授と本機構の水根正人コーディネーターが参加していきます。

7月25日(木)には協議会主催の現地視察会が開催され、「鳥取型低コストハウス」やスイカ栽培現場の見学、らっきょう植え付け機・根葉切り機、アシストスーツ等の実演が行われ、参加者間で現場課題についての認識共有が図られました



## 9.平成27年度第1回とっとり防災・危機管理研究会【4月28日(火):鳥取大学広報センター】

今年度第1回目となる「とっとり防災・危機管理研究会」を鳥取大学広報センターを本会場に鳥取大学医学部総合教育等(米子市)とテレビ会議で繋ぎ開催しました。新たな会員をお迎えした今回は33名の出席がありました。

本会は高等教育機関・自治体・民間企業などで構成される研究会で、各分野の専門家が連携・協同することで非常時における様々な防災・減災研究等を推進し、その成果を広く地域社会に発信しています。会ではまず、初めに本研究会会長の松原雄平教授(鳥取大学大学院工学研究科)が、昨年度の事業報告と今年度の事業計画を説明しました。説明の中で松原会長は、例年の活動のほかに、地域防災力の向上に向けて地域と連携した活動に本研究会から協力支援を行うことや、防災研修会等への講師派遣要請にも積極的に支援していくと述べました。

また、各自治体から今年度の防災に関する取り組みについての報告もあり、会員からは、今後持続的に発展的に活動を進めていくための資金の確保のあり方等、積極的な意見交換が行われました。今後も様々な活動を行うことで地域の防災意識の向上に寄与できるよう努めていきます。

## 10.平成27年度鳥取大学振興協力会第2回運営会議【5月14日(木):エキパル倉吉】

振興協力会では、会員企業のニーズに応えるための活動を活性化させ、今まで以上に産業界と密接に連携するための検討を行うことを目的とした「運営企画会議」を設置しています。

このたびは会員企業の実務担当者4名にお集まりいただき、第2回会議を開催しました。今回は平成27年度の県外先進地視察の計画について、具体的な視察先やテーマについて意見交換を行いました。本会議は今後も定期的に開催し、会員企業にとって必要とされる会となるための検討を重ねていくこととしています。



## 11.ファブラボとっとり mid、west オープン【5月16日(土):BYヨシダ(倉吉市)、17日(日):ぶんぶん堂(米子市)】

5月16日(土)、17日(日)、最新のデジタル機器やアナログ工具でものづくり体験ができるファブラボとっとり(ものづくり協力会議運営)は、『ファブラボとっとり mid』(倉吉市:BYヨシダ内)、『ファブラボとっとり west』(米子市:ぶんぶん堂米子店)をオープンし、同日記念に「キックオフセミナー」を実施しました。

トークセッションでは「ファブラボ渋谷」梅澤陽明様、「ファブラボ大宰府」の柳瀬隆志様をゲストに迎え、「持続・発展可能なファブラボ運営の実現に向けて」をテーマにお話をいただきました。体験ワークショップでは参加者にレーザー加工機でMYはんこ(mid)・MYコマ(west)づくりを体験いただき、教育・行政関係者、大学生に加え、一般の方を含む述べ116名の方にご参加いただきました。



## 12.新日本海新聞社寄稿「鳥取大学地方創生への挑戦」【5月25日(月):日本海新聞紙上】

平成27年4月より新日本海新聞社が地域の頑張る企業の紹介など、地域経済を応援する紙面「地域経済ウォッチ面」に鳥取大学が「地方創生への挑戦」をテーマに寄稿を行う事となりました。

第1回目となる5月25日掲載分では、本学の産学・地域連携推進機構 清水准教授が「鳥取の海に学ぶ」題目に日本海の水産業の現状・課題そして今後の可能性について執筆しました。

### **13. 県内高等教育機関卒業生の地元定着促進のための意見交換会** 【5月27日(水):鳥取大学共通教育棟】

今年度文部科学省が公募している「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」の申請に向けて、地元経済界と卒業生の地元定着促進のための意見交換会を開催しました。

今回の事業では、経済界が求める人材像を基に教育カリキュラムを作ることを目的としており、鳥取県商工会議所連合会の大谷幹事長ほか経済界の皆様にご参加いただき、効果的なインターンシップのあり方やPBLなど地域と連携した教育を通じて地元への就職率・定着率向上を目標として取り組むことを確認しました。



### **14. 第8回大学は美味しいフェア** 【5月28日(木)~6月2日(火):高島屋新宿店】

本イベントは、全国各地の大学が、そのブランド力とともに、共同研究の成果や学生のアイデアを生かした商品を一堂に集め、販売するものです。本学は第4回から参加しています。

本年度は昨年に引き続き、(有)AONケミカルが工学研究科 齋本博之教授と共同開発した二十世紀梨酢を、(株)グラシ・クリュ食工房カフェ・ダール・ミュゼが農学部 渡邊文雄教授が研究に関わる黒らっきょうおよび黒らっきょうを使った調味料「黒らっきょう醬」を販売しました。販売には地域学部 馬場芳准教授のゼミ生が参加しました。期間中には石破地域創生担当大臣も応援に駆けつけてくださいました。



### **15. 平成27年度第1回鳥取大学一日南町連携ワーキンググループ会議** 【6月2日(火):鳥取大学広報センター】

平成27年度鳥取大学一日南町連携ワーキンググループ会議を6月2日、鳥取大学広報センターで実施しました。

連携協定締結10周年を迎えた本年度の第1回WG会議には、鳥大関係者・日南町職員を中心に32人が参加し、各担当者が本年度連携事業の事業計画や10周年記念イベントの説明を行うとともに、WG会議メンバーで意見交換を行いました。

会議に参加した日南町企画課企画振興室 浅田雅史室長は、「WG会議を毎年3回開催し、連携事業に地域の実情を反映させ、真に地域に貢献する事業にブラッシュアップしてきことで、鳥取大学と日南町が10年間強固な連携を維持してこられた」と述べ、本会議の意義を強調されました。



### **16. 中野港漁村市参加** 【6月13日(土):境港市】

境港市と本学の連携による地域貢献支援事業「産学官連携による地域における新たな水産業創出を支援する取組み」の一環として、「さかいみなど中野港漁村市」に産学・地域連携推進機構 清水克彦准教授が地域学部 馬場芳准教授およびそのゼミ生とともに参加し、現地の漁業者やスタッフと交流しました。

このイベントは、沿岸漁業活性化と魚食推進を目的として、地域の漁業者が自ら販売を行い、水産業者や地域のボランティアが支援して平成25年から実施されています。

新鮮な魚介類が格安で販売されるとあり、開始1時間前から行列ができ、1時間ほどで用意した鮮魚や干物、揚げ物などすべて完売となりました。他県ナンバーの車も多数見られ、地域外にも認知が広がっていることがうかがえます。この知名度を日常の販売にも広げていくことが重要であると認識しました。



## 17.平成 27 年度大学開放事業の開始 【6 月 13 日(土)～:鳥取大学教員養成センター一他】

鳥取大学では教育・研究成果を地域社会に還元するとともに、地域住民への生涯学習の機会を提供するため、教員自らが知識・技能等を多様な形態で地域住民に発信する取組みとして「大学開放推進事業」を実施しています。

6 月 13 日(土)には鳥取大学教員養成センターの主催で、「鳥取大学の森のたんけんたい」が実施されました。児童と保護者の方 46 名に参加いただき、地域学部の永松 大教授をはじめとする講師の案内で、鳥取大学構内の動植物を楽しんでいただきました。今後も随時、様々な事業を実施していきます。



## 18.第 19 回因幡の手づくりまつり 【6 月 13 日(土):智頭街道商店街・五臓圓ビル】

6 月 13 日(土)、鳥取市の智頭街道商店街にて、ものづくりの楽しさを体験してもらうことを目的とした、『第 19 回因幡の手づくりまつり』が開催しました。これは各大学(鳥取大、鳥取環境大、鳥取短期大、鳥取看護大)と智頭街道商店街振興組合が共同で開催しているもので、学生や商店街の店主、児童ら約 200 人がスタッフとして参加し、一般参加者は 1,200 名にのぼりました。

商店街には木工や紙細工などの手づくり体験ができる 40 ブースが並び、参加者は万華鏡や竹笛、染物など気に入ったブースに立ち寄り、身近な素材を活用したものづくりを楽しんでいました。

## 19.平成 27 年度第 1 回南部町・鳥取大学連携事業連絡会 【6 月 24 日(水):南部町役場法勝寺庁舎】

南部町と鳥取大学との連携事業を一層推進していくため、南部町役場法勝寺庁舎で平成 27 年度第 1 回南部町・鳥取大学連携事業連絡会を開催しました。

法橋理事、坂本昭文町長をはじめ 30 名の出席をいただき、これまで行ってきた事業の経過報告や今年度実施する事業計画の確認、町政の課題についての意見交換を行いました。次回は秋頃に開催し、連携事業の進捗状況や来年度以降の新たな事業について協議する予定です。



## 20.産学連携学会第 13 回大会参加報告 【6 月 25 日(木)、26 日(金):北海道北見市 北見工業大学】

産学連携学会第 13 回大会が 6 月 25、26 日に北見工業大学(北見市)で開催されました。産学地域連携推進機構 松原雄平機構長はオーガナイズドセッション「地域における大学の活用」において依頼発表として「鳥取地域における地域の産学官とのコンパクトで密接なネットワーク」と題し報告しました。また、同機構 清水克彦准教授が「地域における水産業活性化に向けた取り組み」、前波講師が「Community-based Participatory Research 拠点の検討」、「論文データベースを利用した専門家意見聴取手法の検討と試行」を報告しました。

また、本学が岡山大学とともに事務局を務める「中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)」が平成 27 年度産学連携学会業績賞を受賞し、表彰されました。同賞は産学連携の先端的活動に対し業績を上げた個人・団体を表彰ものです。「中国地域産学官連携コンソーシアム」は、文部科学省のイノベーションシステム整備事業大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型)『特色ある優れた産学官連携活動の推進』に、岡山大学・鳥取大学が共同で応募し採択され、平成 20 年度から同受託事業として実施されてきた産学官連携事業です。平成 24 年度をもって文科省事業としては終了しましたが、平成 25 年度以降も両校が中心となり事業を継続し、中国地域の産学官連携活性化の一翼を担うべく、活動しています。



## 21.平成 26 年度鳥取大学地(知)の拠点整備事業・地域志向教育研究、鳥取大学地域貢献支援事業成果報告会(東部) 【7 月 1 日(水):とりぎん文化会館】

平成 26 年度に実施した地域貢献支援事業と、COC・地域志向教育研究事業の成果報告会をとりぎん文化会館で開催し、自治体職員や地域住民の方など 91 名の参加がありました。いずれの事業も地域課題の解決を目指して取り組んだもので、各自自治体の職員の方からも連携事例についてご報告いただきました。

地域学部の竹川俊夫教授から鳥取市用瀬町総合支所と取り組んだ地域包括ケアシステムづくりの事例を、医学部附属病院の杉原助誉



明教授から若桜町と取り組んだ肝がん直接検診の事例を、工学研究科の羅貞一助教から智頭町と取り組んだ、学生と町職員が共同しての地域の問題認識の共有や解決策を検討した事例をご報告いただき、来場者は発表に聞き入っていました。

## **23. 竹林整備と竹利用に関する鳥取県連携協議会平成 27 年度第 1 回幹事会** 【7月1日(水):鳥取県福祉人材センター】

平成 27 年 7 月 1 日(水)鳥取県福祉人材センターにて、本年度第 1 回目の幹事会が開催されました。本協議会は「荒れ放題の竹林の整備」「美味しいタケノコの生産技術」「竹材の有効利用」を三つの柱に活動を行っています。

本年度は会員対象の見学会等を企画・実施するとともに、会員外の市民・県民にも見える活動を行う予定です。なお、昨年度も実施した「竹利用フェスティバル」を平成 28 年 3 月 5 日(土)とりぎん文化会館で開催する予定です。

## **24. 第 9 回琴浦町産学金官情報交換会、琴浦町地方創生意見交換会** 【7月2日(木):石見会館】

第 9 回琴浦町産学金官連携情報交換会が琴浦町の石見会館で開催され、琴浦町をはじめ町内の企業や金融機関、中部総合事務所、鳥取大学などが一堂に会し、意見交換会が行われました。

鳥取大学は、地方創生の一環として取り組むCOC+事業のほか、地域協働型インターンシップ、鳥取大学振興協力会の活動報告等について説明し、これらの事業への協力依頼を行うとともにご活用いただくようPRを行いました。

### **③知的財産管理運用に関する事業**

#### **1. 平成27年度 中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議** 【5月29日(金)開催:岡山大学 本部棟】

中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)の事業報告と事業計画の協議を行う運営会議が岡山大学本部棟で開催されました。今回は、正会員から14校(大学・高専)、特別会員から7団体(経済団体等)が参加し、事務局を含めて36名が出席しました。会議では、事務局から、平成26年度の事業報告と3月に行われた外部評価委員会の報告、および平成27年度の事業計画について説明を行いました。さんさんコンソの事業は、正会員校個別の活動では及ばない領域を中心に支援を行っていますが、27年度も前年と同様に、各種新技術説明会の開催、マッチングイベント等の開催、人材育成のための知財セミナーの開催、CPAS Netの運用、情報配信企業との提携等、多岐にわたる計画について提案を行い、全会一致で承認されました。最後に、参加会員全員から、それぞれの立場での産学連携の現状と課題、および、さんさんコンソに対する期待や要望が出され、今後のさんさんコンソの事業の参考となる貴重な意見が得られました。



# 平成27年度 鳥取大学公開講座

## 『地方創生に大学を活かす』

受講料  
無料

### 受講生募集！！

鳥取大学では、地域と大学が双方向に活用しあう実効性の高い関係の構築を目指し、教育・研究・社会貢献の各種活動に取り組んでいます。また、平成25年度からは大学と自治体との連携をさらに発展させるため、「**知の発展的循環プロセスの構築による地域拠点整備事業（COC：center of community）**」の取組を進めているところです。

本年度の公開講座では『地方創生に大学を活かす』をテーマとして、人口減少・少子高齢化に適応した社会づくりや、県内産業の再生・成長を目標にした地域再生の取組について、各分野の研究者から講演を行います。

## 平成27年度 鳥取大学公開講座『地方創生に大学を活かす』

### テーマ・概要

8  
月  
8  
日  
(土)

#### 『田園回帰・なりわい・小さな拠点 ―農山村の地域づくりと地方創生の展望―』

地域学部 准教授 筒井 一伸

ニュースや新聞、行政からの広報など「地方創生」や「地方版総合戦略」という言葉をきかない日はありませんが、みなさんの生活空間（コミュニティ）にはどう関係してくるのでしょうか。農山村地域の課題の実態と、田園回帰やなりわい（起業や継業）、小さな拠点といった新しい動きを交えてお話しします。



8  
月  
2  
2  
日  
(土)

#### 『データから見るトットリのすがた』

工学研究科 准教授 桑野 将司

情報化社会の進展に伴い、様々な角度から大量のデータが収集・蓄積されています。一方、データ量が膨大すぎるがゆえに、データの本質を見抜く能力が必要とされます。本講座では、山陰地方・鳥取県・鳥取市に関わる様々な社会現象について収集された社会データをもとに、データから見えてくる事実とその背後に潜む現実について議論します。

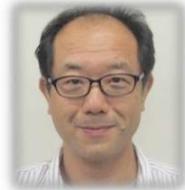


9  
月  
1  
2  
日  
(土)

#### 『地域と連携した薬用植物エキナセアの研究』

農学部 教授 石原 亨

エキナセアは北米原産の薬用植物です。エキナセアから作られたハーブティーは鳥取県の新しい特産品になり、大山町を中心に栽培も盛んになってきました。エキナセアにはインフルエンザウイルスの増殖を抑制する成分が含まれているようです。これまでの製品開発の経緯と最近の研究成果をご紹介します。



9  
月  
2  
6  
日  
(土)

#### 『大学教育における地域産学連携について』

地（知）の拠点整備推進室 特命講師 天野 圭子

近年、大学教育の場において、学生の活力・実践力や地元地域を志向する力を養うことを目指し、地域や地元産業と連携した大学講義やインターンシップなどの教育活動の取組が増えていきます。今回は、こうした取組のねらいや期待される効果についてご紹介します。



#### お申込み方法

- 郵送・FAX・メール・電話で受け付けております。
- 本チラシの裏面の受講申込書の内容（お名前・ご住所・お電話番号等）にて、下記のお問い合わせ先へお申込みください。
- 電話でのお申込みの場合は、受講申込書の記載事項をお伝えください。（受付時間／平日9:00～17:00）
- 申込の締切日は8月3日（月）となります。

#### お問い合わせ先

鳥取大学 産学・地域連携推進機構（社会貢献課）  
TEL/0857-31-6777  
FAX/0857-31-6708  
E-Mail/koken@adm.tottori-u.ac.jp



※4回全ての講座を受講された方には修了証を交付致します。

発行日：平成27年7月15日＜第41号＞

連絡先：鳥取大学産学・地域連携推進機構

所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101

ホームページ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/

TEL:0857-31-5609 Fax:0857-31-5571

E-mail: ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp